

道の駅オープンに向けて

- ・独自性を生かした特産品づくり
- ・若者目線による魅力探し

～町の良さを生かした新たな取り組み～

新規商品開発に向けて

■ 商品開発や地域ブランディングを支える知的財産研修会が行われました

7月7日(金)に、新規商品開発や地域ブランド戦略に向けた「知的財産研修会」が開催されました。

近年、全道各地で地域ブランドの確立に向けた取り組みが進められています。当町でも、今後道の駅のオープンに向けて様々な商品開発が予定されているため、独立行政法人工業所有権情報・研修館知財活用支援センターより講師を招き、知的財産の基礎知識について学習しました。

講師からは、ブランド化に有効な手立ての1つとして地域名と商品名の組み合わせを商標にする「地域団体商標制度」が紹介され、「むかわししゃも」や「苫小牧ほっき貝」などの登録例をとおして、地域が一体となったブランド形成が重要であること、ふるさと納税の利用者の増加を受け、返礼品のブランド保護を行うことが商品価値の高揚につながるなどの助言がありました。

参加者からは、類似商品との競合を避けるための留意点や商標登録を取得する際の経費負担などについて活発な質問があり、充実した研修会になりました。



知的財産研修会の様子

■ 道の駅特産品開発補助金 交付認定審査会

7月14日(金)に、特産品開発に向けた補助金の交付認定審査会が開催されました。

道の駅オープンに向けた商品開発を支援するため、今年度開設された「道の駅特産品開発事業補助金」と「道の駅販売商品開発チャレンジ支援事業補助金」の2つの補助金は、関係機関や団体の方々によって構成された認定審査会の協議を踏まえ、補助交付の可否を決定することとしています。

当日の審査会では、6月5日から30日の公募期間中に申請があった7件の事業計画について、5名の審査員により内容の詳細確認や補助金交付の妥当性を協議。結果としていずれも「採択とすべき」との見解で一致したため、全案件とも補助金が交付されることとなりました。

今回申請があった7件は、来年3月にむけて、本格的に開発が進んでいきます。

※補助申請があった7件

(株)水工房：7種の焼き菓子	早来観光(株)：漬物商品
(有)北海道興農社：ロイシーコーンのフリーズドライ商品	(株)北海道コクボ：近郊農産物を活用した新規洋菓子商品
(株)早来かりんず：ハスカップソースドレッシング	(有)アグリコーポレーション：道の駅限定レトルトカレー
(一社)あびら観光協会：ベーカリーやテイクアウト商品	

町内の魅力探し ～札幌市立大の学生による町内探索～

■ 官学連携によるイラストマップの作成

安平町の魅力を発信する媒体としてイラストマップの作成を進めています。このイラストマップは、札幌市立大学デザイン学部の学生との官学連携により進めており、町の雰囲気をつかむためにこれまで3度のフィールドワークを行いました。

町内の観光名所や特産品を中心にフィールドワークを実施しておりますが、製作過程で実際に事業者や生産者にお話をうかがい、学生からは「生産者の思いをマップに反映させられれば」との声が聞かれました。

今後は、大学キャンパスにおいて製作していくこととなりますが、年度内には現存する当町のパンフレットとは趣向が異なるデザインのマップが完成します。

若い力による新たな当町のPR媒体に期待が高まります。



メロンハウスを見学する学生グループ